

第2学年 道徳学習指導案

平成28年6月29日（水）第5校時

- 1 主題名 生きる喜び 3－（1）
- 2 資料名 ぼく （出典「みんなたのしく」東京書籍）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容項目3－（1）は「生きることを喜び、生命を大切にすることをもち、」をねらいとしている。これは、第3学年及び第4学年の「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。」及び、第5学年及び第6学年の「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重すること。」へと発展していくものである。

生命の大切さはどれだけ強調しても過ぎることではない。すべての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つものである。その生命も人間だけでなく、生きているものすべての生命に対する尊重の精神が必要である。

生命を慈しみ、大切にすることは、小さな植物、動物の中にある生命に気付き、その不思議さや素晴らしさに心を寄せることで生まれる。そして、それは、やがて自分自身の生命の素晴らしさ、かけがえのなさ、大切さにつながる。さらに、それは、自分と同じかけがえのない生命を持つ他の人の命をも、大切にすることへと通じていく。つまり、動植物や自分が生きていることの素晴らしさやその喜びを感じることで、自分の生命に対し、また小動物や植物、さらには他の人の生命に対し、大切にしようとする心が生まれるのである。

低学年の児童は、生命の尊さを知的に理解するというより、生活経験の中で生きていることを感じ取ることが中心になると考えられる。例えば、体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている。夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる。おいしく朝食が食べられる。学校に来て、みんなと楽しく学習や生活ができる。このような極めて当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そのことに喜びを見出すことによって生命の大切さを自覚するようになることが大切である。

身近な生活の中から、「生きていること」や「生きていることの喜び」を自覚させる。生きているからこそ身の回りにはたくさんの素敵なものや人に出会うことができ、様々な経験をすることができることに気付き、生命を大切にしようとする心情を育てたいと考え本主題を設定した。

（2）児童の実態について

本学級の児童は、明るく元気で外遊びが大好きである。男女の仲も大変よく気軽に名前を呼び合って協力したり、友達のことを優しく励まして助け合ったりする姿も見られる。また、学級で飼育しているハムスターや植物の世話をする当番を決め、はりきって活動している。

ねらいにかかわる児童の実態を調べるため、アンケートを行った。その結果は以下の通りである。

（平成28年5月13日）

1 毎日の生活で「楽しいな」「嬉しいな」と思うときは、どんなときですか。（複数回答）

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| ・友達と仲良く遊んでいるとき（61.8%） | ・ゲームをやっているとき（44.1%） |
| ・テレビを見ているとき（38.2%） | ・プレゼントをもらったとき（32.4%） |
| ・計算カードができたとき（29.4%） | ・100点をとったとき（29.4%） |
| ・縄跳びが跳べたとき（29.4%） | ・こま回しができたとき（26.5%） |
| ・ご飯を全部食べられた（おいしい）とき（20.6%） | ・家族でお出かけしたとき（20.6%） |
| ・ほめられたとき（17.6%） | ・本を読んでいるとき（14.7%） |
| ・字がうまく書けたとき（14.7%） | ・おもちゃで遊んでいるとき（14.7%） |
| ・色塗りしているとき（11.8%） | ・給食を食べているとき（11.8%） |
| ・お風呂に入ったとき（11.8%） | ・掃除をしているとき（8.8%） |
| ・洋服を買ってもらったとき（5.9%） | ・雪が降ったとき（5.9%） |
| ・宿題をやっているとき（5.9%） | ・泳いでいるとき（5.9%） |
| ・パパと一緒に遊んでくれたとき（5.9%） | ・買い物をしているとき（5.9%） |

- ・歌を歌っているとき (2.9%)
- ・電車を見ているとき (2.9%)
- ・物をつくっているとき (2.9%)
- ・絵を描いているとき (2.9%)
- ・お寿司を食べたとき (2.9%)
- ・お姉ちゃんの誕生日にハムスターをかってもらったとき (2.9%)
- ・道徳、音楽、体育をやっているとき (2.9%)
- ・あったかい布団に入るとき (2.9%)
- ・料理を手伝っているとき (2.9%)
- ・バスケットをしているとき (2.9%)
- ・話をしているとき (2.9%)
- ・業前運動をしているとき (2.9%)

2 自分のことが好きですか。 それは、どうしてですか。

はい (91.2%)

- ・勉強が得意だから (17.6%)
- ・運動が得意だから (14.7%)
- ・元気に遊んでいるから (8.8%)
- ・誉められるから (5.9%)
- ・優しいから (5.9%)
- ・給食が完食できるから (5.9%)
- ・頑張りやだから (5.9%)
- ・本が好きだから (2.9%)
- ・色塗りが好きだから (2.9%)
- ・家族がいるから (2.9%)
- ・計算が速いから (2.9%)
- ・縄跳びができるから (2.9%)
- ・顔がかわいいから (2.9%)
- ・いいことがいっぱいだから (2.9%)
- ・人が好きだから (2.9%)
- ・ダンスが得意だから (2.9%)

いいえ (5.9%)

- ・お喋りで怒られるから (2.9%)
- ・勉強が嫌いだから (2.9%)

3 何か自慢することはありますか。 どんなことですか。(はいと答えた人だけ)

はい (70.6%)

- ・計算カード合格 (11.8%)
- ・泳ぐこと (11.8%)
- ・なわとびが得意 (11.8%)
- ・字が上手 (5.9%)
- ・色塗りが上手 (5.9%)
- ・勉強が得意 (2.9%)
- ・音楽が上手 (2.9%)
- ・バスケットが得意 (2.9%)
- ・図工で金賞 (2.9%)
- ・運動が得意 (2.9%)
- ・ダンスが上手 (2.9%)
- ・読書の量が多い (2.9%)
- ・優しい (2.9%)

いいえ (26.5%)

以上のことから、子供達は、毎日の生活で「楽しいな」「嬉しいな」と思うことがたくさんあり、自分のことを肯定的に捉えているものの、自分に自信を持ってない児童が約 30%いることが分かった。得意なものがある児童は、自己肯定感が高いが、注意を多く受ける児童や勉強を苦手とする児童は、自分のよさを感じられないようだ。家族からの手紙を活用して、家族の深い愛情にふれ、自分が大切な存在であることをすべての児童に感じさせたい。

自分の命の大切さについてあらためて考える機会は少なく、命がなくなると困るという視点からの思いが強い。命があるっていいことだな、素晴らしいなという感動を児童に味わせたい。そこで、自分が生きているからこそ自分の身の回りにあるたくさんの素敵なものや人に出会うことができることに気づかせる。そして、生命の大切さを感じるとともに、自分自身を好きになり、主体的に輝いて生きていこうとする心情を育てたいと考えた。

(3) 資料について

本資料は、主人公の「ぼく」が、自分の好きなものを教えてあげようかという語りかけから始まる話である。「ぼく」の好きなものは、お父さんから始まってペットや友達、自然などいろいろと挙げられているが、一番好きなものは「ぼく」であるとしている。それは「ぼく」がいなければ、何も好きになれない、体験できないからである。「ぼく」が好きなものは「ぼく」という意味を、2年生の子供なりに自分の思いと重ね合わせながら捉えられるようにし、生きる喜びを味わえるようにしたい。

導入で自分の好きなことや好きなものをグループの友達に発表する。その際、聞き手はシェアリングでの約束事を守るようにする。

展開では、本時の課題「ぼくの本当に好きなものはなあに？」を確認した後、紙芝居にした資料の前半を読む。「ぼく」の好きなものを確認し、好きなものにたくさん囲まれている「ぼく」は、毎日楽しく過ごしていることをおさえる。導入の「すきすきさがし」のワークシートを活用し、主人公と自分を重ね合わせることで、主人公の気持ちを考えやすくする。「ぼく」の一番好きなものを予想してから、資料の後半を読む。「ぼく」がみんなに囲まれているとこ

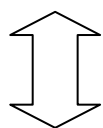
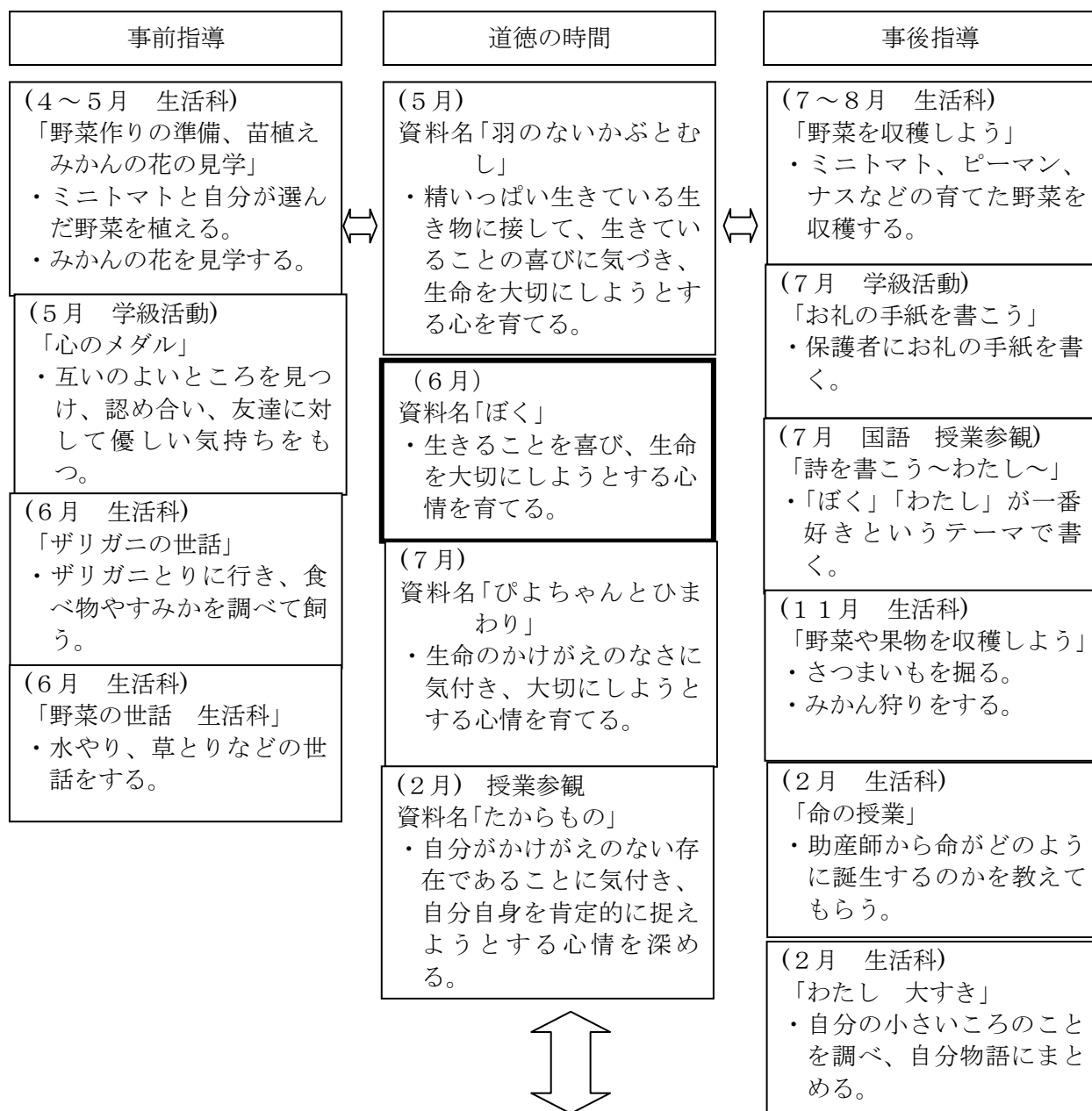
ろにいなかったら、好きなこともできない、美しいものも見ることができないことを「つまらない」という「ぼく」の心の内を探る。「ぼく」のまわりの人は、「ぼく」をどう思っているのかを想像することで、生きている喜びを感じている「ぼく」の気持ちに共感させる。

展開後段では、家族からの手紙を読み、家族の自分への思いや自分自身の大切さを思い起こさせた後に中心発問の「なぜ、ぼくの好きなものは、ぼくなのでしょうか。」と児童に迫る。世界でたった一人の家族の宝物であるからこそ、「いちばん、いちばんすきなものはぼく」と言う主人公の気持ちを理解できると考える。生きているからこそ、手をつなぐと温かいと感じ、心臓が動いていることも確認させたい。また、この場面をじっくりと捉えることにより、自分の生活の全てが生きていることの証であることに気づくことができるようにする。授業を終えて感じたこと、考えたこと、これからの自分の目標をワークシートに記入することで、自分自身の生きる喜びを味わい、実感できるようにする。

終末では、「命」に関する詩を映像で紹介し、命の大切さや生きている喜びを印象付けたい。

4 他の教育活動との関連

(生命に関する年間計画)



家庭との連携

授業参観で道徳の授業を公開し、児童の実態をつかんでもらう。「道徳のお願い」という文書を配布し、「家族からの手紙」を書いてもらう。子供からの感謝の手紙を読んでもらい、生きることを喜び、自分を大切にしようという気持ちを見守ってもらう。学級通信で「心ぽかぽかカード」の取組の様子などを伝えていく。

(1) ねらい

生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展 開

段 階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ★評価の観点（評価方法）	時間 資料
導 入	<p>1 「すきすきさがし」で見つけた大好きなものを紹介する。</p> <p>○プリントに書いたものをグループで、紹介しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな食べ物 ・好きな勉強 ・好きな遊びなど ・それは私と同じだな。 ・そうだったんだ。 ・それは気づかなかつたよ。 ・そうかあ。そんな考えもあるね。 ・どうして〇〇を選んだのかわけを教えてください。 	<p>○特別活動でエンカウンターを行い、そのときに見つけた大好きなものを紹介する。</p> <p>○グループの友達とプリントに書いた自分の好きなものを発表し合う。</p> <p>○「相手の考えを否定しない」「うなずきながら聞く」「相手に質問してもよい」などのシェアリングでの約束事を確認してから始める。</p> <p>○司会や発表の順番を確認してから始めさせる。</p>	5分 ワークシート
展 開	<p>2 課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ぼくの本とうにすきなものは なあに？</p> </div> <p>3 資料「ぼく」の前半を読み、登場人物の条件・状況を知る。</p>	<p>登場人物：ぼく（主人公） おとうさん おかあさん ベス（飼い犬） ハルカ（妹） ケンちゃん・ヒロシくん（友達）</p> <p>条件・状況：小学2年生の「ぼく」は「好きなもの」について語り始める。</p>	<p>○課題を確認する。</p> <p>○期待感を持たせるため、紙芝居で読み聞かせをする。</p> <p>○「ぼく」のまわりに好きなものを貼っていき、好きなものに囲まれていることを視覚的に捉えさせる。</p>	7分 人物の絵

<p>深める</p>	<p>4 主人公のぼくの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○好きなものにたくさん囲まれている「ぼく」はどんな気持ちでしょう。</p> <p>5 資料「ぼく」の後半を読んで、「ぼく」の一番好きなものを考えさせる。</p> <p>○もしぼくがみんなに囲まれているところになかったらどうでしょう。</p> <p>○「ぼく」のまわりの人は、ぼくのことをどう思っているのでしょうか。</p> <p>6 保護者からのメッセージを読む。</p> <p>○おうちの方から皆さんにお手紙が届いています。一人一人に渡しますので、読みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大好きな人に囲まれて、嬉しい。 ・仲良しの友達と遊べて楽しい。 ・好きなことができて幸せ。 ・ほかに好きなものは何だろう。 ・家族も出ているし、難しいな。 ・大好きな人に会えない。寂しい。 ・好きなこともできなくてつまらない。 ・お父さんとお母さんは「ぼく」のことを大事にしていると思うよ。 ・妹や友達も「ぼく」のことを大好きだと思ふな。 ・嬉しいなあ。 ・○○なところがいいよだって。 ・私のこと大切だって。 ・生まれてきてくれて、ありがとうって。 ・命を授かったとき、 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童のつぶやきを拾いながら、なぜ幸せなのか、なぜ楽しいかを考えさせる。 ○主人公が毎日楽しく過ごしていることを確認させる。 ○導入の児童の「すきすきさがし」のプリントを意図的に数名黒板に貼り、自分達はどうかを考えさせる。 ○資料後半を読み聞かせる前に「ぼく」の一番好きなものを心の中で予想させる。 ○「ぼく」がいなかったら、素晴らしいことに出会えない悲しさを深く味わえるように読み聞かせる。 ○『「ぼく」がみんなに囲まれているところになかったら・・・』というように児童に投げかけ、黒板の「ぼく」を好きなものから遠ざけ、考えさせる。 ○「ぼく」を取り巻く家族や友達の思いを想像させることで、「ぼく」が自分のことを一番好きだと言っている根拠を考えやすくする。 ○まわりの人の「ぼく」への思いを考えさせて、生きている喜びを感じとらせる。 ○家族の温かい愛情にふれることが出来るようにBGMを流す。 ○メッセージを通して、保護者の自分への思いや自分自身の大切さを思い起こさせるようにする。 	<p>15分</p> <p>6分</p> <p>手紙</p> <p>B</p> <p>G</p> <p>M</p>
------------	--	--	--	---

		<p>7 なぜ、ぼくの1番好きなものが「ぼく」なのかを考えさせる。</p> <p>○なぜ、ぼくの1番好きなものはぼくなのでしょうか。</p>	<p>嬉しかったって。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界でたった一人だけだから。 ・家族の宝物だから 	<p>○家族からの手紙を読んだことで、自分と主人公を重ね合わせて考えることができるようにする。</p> <p>★生きている喜びを感じているぼくの気持ちに共感できたか。 (発言・観察)</p>	5分
	見 つ め る	<p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習で思ったことや考えたことを書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの本当に好きなものは「ぼく」だった。 ・生きているって幸せ。 ・自分の命って大切。 ・家族が応援してくれているから、苦手なこともがんばっていききたいな。 	<p>○数名の児童の感想を発表して、余韻を持たせる。</p> <p>○感想を発表し合う活動を通して、家族から受容される喜びを十分に引き出すようにする。</p> <p>★家族の深い愛情にふれ、自分の大切さを感じ取ることができたか。 (ワークシートの記述・発言)</p>	5分 ワ ク シ ト
終 末	あ た た め る	<p>9 命に関する詩の映像を見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命っていろいろなものにあるんだな。 ・一生懸命生きていきたいな。 	<p>○生きている喜びを印象付ける。</p>	2分

6 評価の観点

○児童側の観点

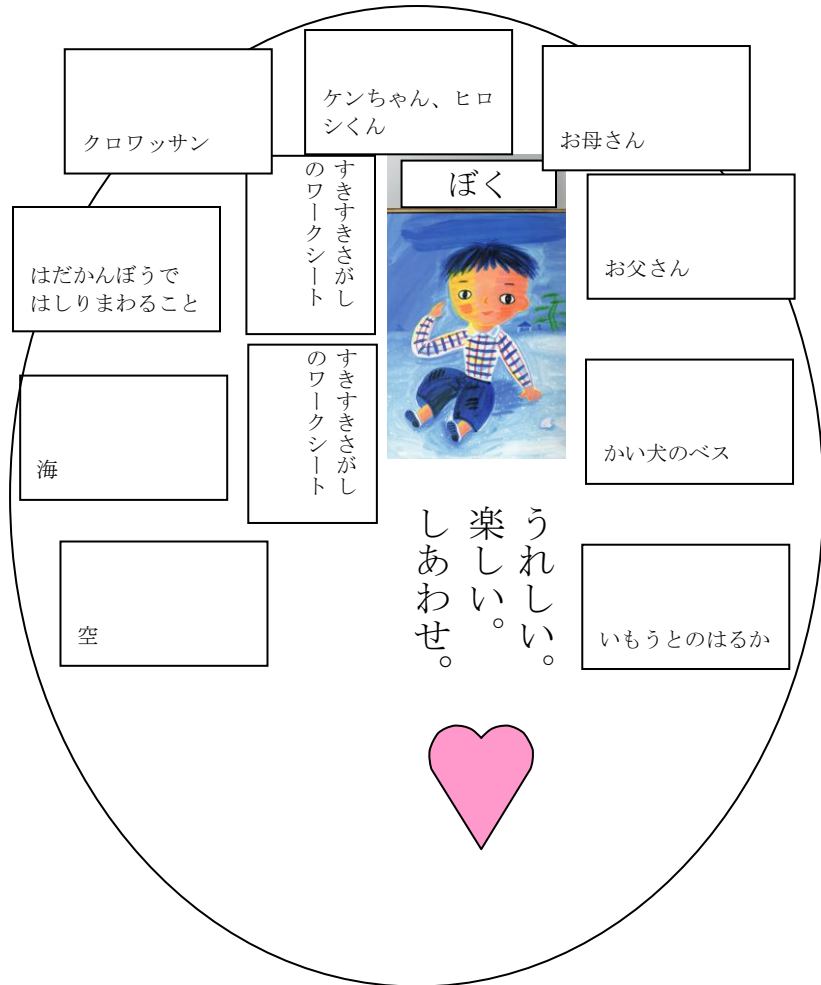
- ・生きている喜びを感じているぼくの気持ちに共感できたか。 (発言・観察)
- ・家族の深い愛情にふれ、自分の大切さを感じ取ることができたか。 (ワークシートの記述・発言)

○教師側の観点

- ・児童が生きている喜びを感じているぼくの気持ちに共感できるような授業の展開ができたか。 (発言・観察)
- ・手紙の活用は児童が自分の大切さを感じ取るために効果があったか。 (ワークシートの記述・発表)

ぼく

ぼくの本とうに好きなものは なあに？
ぼくの好きなもの



うれしい。
楽しい。
しあわせ。

ぼくが いちばん、いちばん
好きなものは……



ぼく

みんなにかこまれているところにいなかつたら
大すきな人にあえなくてさびしい。
すきなこともできなくてつまらない。



まわりの人はぼくのことを



だいじにしている。
大すき

なぜぼくの一ばん好きなものは「ぼく」
なのでしょう。

せかいでひとりだけ
かぞくのたからもの

